

令和2年3月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道東川高等学校長 元 村 治 郎

次のとおり令和元年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 生徒一人ひとりの可能性を引き出す教育実践 (2) 豊かな心で互いを思いやり、支え合う教育の推進 (3) 地域との連携を深めるとともに、学校評価を活用した教育活動の検証と改善 (4) 教職員の専門性を踏まえた、業務の役割分担と適正化
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・学校教育の根幹をなす学習指導面で、相対的に評価が低くなっている。生徒の実態に応じた授業作りを推進する中で、学ぶ喜びを実感し、主体的な学びの姿勢を育成するための工夫が一層必要である。 ・本校教育の特色である「国際理解教育」を一層推進する必要がある。	・家庭学習の取組が不十分であると感じられる。外部テストを有効に活用するなどして、基礎学力の定着に向け引き続き取り組む必要がある。
改善方策	生徒の実態に応じた授業作りを推進する中で、主体的な学びの姿勢を育成するための工夫と、基礎学力の定着を目指した取組を行う。	
生徒指導	・校訓「美風慣行」の実践では、生徒会による朝の挨拶運動などを実施。生徒自身も成長を実感した項目のようであるが、挨拶が苦手な生徒も少なくなく、教員側からの評価は相対的に低い。今後も継続して挨拶等の励行に取り組む必要がある。 ・地域との連携について、生徒の評価が低かった。今後一層の地域連携を推進し、地域に根ざした学校づくりに取り組む。	・当初の目標をおおむね達成している。引き続き各活動の推進を希望する。
改善方策	一層の地域連携を進め、東川町の特色を活かした学校作りをすすめる。	
進路指導	・大部分の生徒で希望の進路を実現させることができた。一方で、進学等で模試や講習を利用する生徒数は少数のため、進学指導に関わる項目は効果測定が難しく低評価となった。	・毎年、改善しつつあるようである。引き続き各活動の推進を希望する。
改善方策	進路指導を通じて、自己の生き方を探究させる取組を一層推進する。	
健康安全指導	・「いじめのない学校生活」が生徒・保護者において最も評価平均が高い項目となった。しかし人間関係のトラブルについては自身で解決できないケースもあり、学校に相談が寄せられることもあった。	・当初の目標をおおむね達成しており、取組は適切といえる。引き続き各活動の推進を希望する。
改善方策	引き続き、様々な領域で安心・安全な学校づくりを推進する。	
公表方法	学校ホームページで公表する。	

3 添付資料 令和元年度北海道東川高等学校学校評価一覧（自己評価書、学校関係者評価書）